

愛媛県畜産研究センター 学術論文掲載 (2022年4月～2023年3月)

誌名	題名	掲載者	掲載年等
関西畜産学会報	搾乳回数の違いがホルスタイン種泌乳牛の乳生産に及ぼす影響	家木 一、畑野 幹人	関西畜産学会報第180号、2023年、P7-11

搾乳回数の違いがホルスタイン種泌乳牛の乳生産に及ぼす影響
家木 一・畑野 幹人

掲載論文要旨

搾乳回数の違いがホルスタイン種泌乳牛の乳生産に及ぼす影響について、基礎混合飼料 (PMR) 給与と粗飼料および濃厚飼料の分離給与での反応の差を交えて調べた。試験は、泌乳後期牛8頭をPMR給与と分離給与で4頭ずつに分け、それぞれ2回搾乳区 (6時および16時搾乳) と3回搾乳区 (6時、16時および22時搾乳) の2処理を設けて、2×2クロスオーバー法で実施した。その結果、1日あたりの乳量は、3回搾乳が2回搾乳に比べて有意に高かった ($P < 0.05$)。また、処理間の搾乳間隔が等しい日中乳量 (6時～16時) も3回搾乳で有意に高かった ($P < 0.05$)。可消化養分総量と粗タンパク質の摂取量がPMR給与と分離給与で同等であったにも関わらず、2回搾乳に対する3回搾乳での乳量増加率はPMR給与 (9.3%増) が分離給与 (4.9%増) よりも高い傾向を示した ($P < 0.10$)。乳成分産生量は搾乳回数が増えるほど高い傾向にあったが、乳タンパク質率は3回搾乳で有意に低下した ($P < 0.05$)。牛乳中遊離脂肪酸含量は、搾乳回数による差がなかった。以上のことから、搾乳回数を2回から3回に増やすことで乳生産は向上するが、飼料給与の違いにより効果に差が生じる可能性が示された。